

## 情報科学研究科修士論文概要の書き方

Title of the thesis in English

情報科学専攻 M23-A99 樟葉太郎 Taro Kuzuha

主査：長尾情 副査：北山工大

## 1 はじめに

情報科学研究科の修士論文概要（以下修論概要）は、このファイルの書式を標準として記述してください。サンプルファイルは、MS Word と LaTeX で用意しています。

修論概要は修士論文に添付して2部提出するほかに、pdf形式（フォント埋め込み）のファイルも事務室に提出してください。

ここに eps ファイル

## 2 用紙サイズ・ページ数・書体

## 2.1 用紙サイズとページ数

用紙サイズはA4判、上下余白は各25mm、左右余白は各20mmとします。ページ数は2ページ以内とします。（字数の目安は2000字です）。

## 2.2 タイトルの書体

タイトルは文字サイズを14ポイント、書体をゴシック体または類似のフォントとします。

英文タイトルは文字サイズを14ポイント、書体を Arial（または類似のサンセリフフォント；以下同じ）とします

著者名・指導教員名の書体は、和文はゴシック体、英文は Arial とします。文字サイズは10ポイント。

図 1: キャンパスへのアクセス

図の下、および表の上には、中央寄せで図表番号と図表タイトルを文字サイズ10ポイントで記載。

図や表は、本文中から必ず引用してください。その際に、「図1にあるように」「表1に示す」など、図表の番号も記してください。図や表は本文から必ず1度は参照してください。

## 2.3 本文の書体

本文・図や表のタイトル・参考文献の書体は、和文は明朝体、英文は Times New Roman（または類似のフォント）とします。

本文の文字サイズは10ポイント、本文は2段組とし、段落の最初は1字下げとします。

## 2.4 章・節の見出し

章の見出しは文字サイズを11ポイント、書体をゴシック体とし、章題の前に章番号を「1.」のように記載することとします。

節の見出しは文字サイズを10ポイント、書体をゴシック体とし、節題の前に章番号と節番号を「1.1」のように記載することとします。

表 1: 整数の表現

内部表現	符号なし	1の補数	2の補数
00000000	0	0	0
00000001	1	1	1
⋮	⋮	⋮	⋮
01111111	127	127	127
10000000	128	-127	-128
10000001	129	-126	-127
⋮	⋮	⋮	⋮
11111110	254	-1	-2
11111111	255	0	-1

## 3 図表

図表は中央寄せで本文中に貼り付けてください。<sup>1</sup>

## 4 参考文献と研究発表業績

必要であれば主要な参考文献を数編程度入れてください。参考文献は文字サイズを9ポイント

<sup>1</sup>この LaTeX サンプルでは、図の eps ファイルを省いています。

トとし、文献番号を [1] のように記載することとします。本文中で文献を参照する際は、文献番号 [1] などと引用してください。

本修士論文に関連した研究発表業績を 1) 2) などと番号付けし、(論文誌掲載)(査読付き発表)(査読無し発表)などと種別を含めて記入してください。

## 5 提出方法

### 5.1 修士論文題目と 300 字概要

修士論文の題目と 300 字概要は、2025 年 1 月 6 日 23:59 までに、情報科学部事務室宛に電子メールでテキストデータを送ってください。宛先やフォーマットは、12 月 6 日に教員宛に通知する依頼書にてお知らせしています。「300 字概要」は、公聴会のプログラムに掲載します。

### 5.2 修士論文と修士論文概要

提出締切は 2025 年 1 月 31 日 13:00 です。

修士論文(修士論文概要含む)は印刷したものを 2 部、さらに修士論文概要は pdf ファイルも電子メールを用いて事務室に提出してください。概要の pdf ファイルの提出を求めるのは、公聴会での利用および将来的に本学でも稼働予定の機関リポジトリ準備を考えてのことです。

以上を表 2 にまとめます。

表 2: 修士論文関連の提出物 (2024 年度)

締切	提出物	形態
1 月 6 日	題目	テキストデータ
1 月 6 日	300 字概要	テキストデータ
1 月 31 日	修士論文(概要含む) 2 部	印刷物
1 月 31 日	修士論文概要	pdf ファイル

## 6 結論

概要の締めくくりは、結論と題した章にして、研究成果をまとめてください。

## 参考文献

- [1] 工大一郎, 大阪次郎, 常翔勝子, “数式処理における ABC 機能の実現”, CAI 学会誌, Vol.7, pp.54-65 (1990)
- [2] 大砂嵐, “知的生命体探査における ZT 学習機能”, 情報処理学会論文誌, 第 30 巻, 第 8 号, pp.1234-57 (1989)
- [3] 日本情報処理開発センター編, “OIT システム”, 日刊工業新聞社 (東京, 2005)
- [4] J. K. Inoue, and D.S.S. Oshima, :“Computers and University”, McGraw Hill, New York (1975)

## 研究発表業績

- 1) (論文誌掲載) T. Kuzuha, J. Nagao and K. Kitayama, “LaTeX sample format for master thesis”, J. Latex Format, **12**, pp.34-40 (2014)
- 2) (査読無し発表) 樟葉太郎, 長尾情, 北山工大, “修士論文概要の Tex フォーマットの作成”, 日本物理学会 (2025 年 3 月, 神奈川大学)